



いいたたて便り



土から復興を考える

「までいの心で」

「までいの心で」



飯舘村には20の行政区があります。長泥は村の南に位置する地区で、いまだ住民の方が戻れない場所ではありますが、そこでは環境再生に向けてさまざまな施策が進められています。除染した土の活用に向けて、国の実証事業もその一つです。もちろん反対や不安の声も上がりましたが、しかし私たちは、支え合い、助け合いながら前へ進むことが、飯舘の、派通りの、そして福島再生に必ずつながると考え、将来を見据えた上で必要な事業として、長泥の皆様と相談して、村は実施に至っています。



飯舘村長 菅野典雄

「までいの村」から。

「までいの村」から。



長泥には「希望」があります。福島県飯舘村長泥地区で行われている除染した土の活用に向けた国の実証事業にさまざまな意見があることはわかっています。ただ私は、これは夢のある事業だと考えています。長泥にまだ戻れない人が希望を持てるようなことからしても国には成功させてもらわなければならないので、まず一つ成功させて、また一つ成功させる。



飯舘村 長泥行政区長 嶋原良友
手に持っているものは農地で栽培しているトウモロコシです。

「までいの村」から。

そうやって再生が実感できるような道筋を作るために、多くの人が汗をかくてくれています。私もできる限り、実証事業の現地を訪れて、土を耕し、草を取り、植物の生育を見守りながら、世の中の人々と共に、長泥の再生を見届けたいと願っています。



村の鳥：ういす



環境省は飯舘村の長泥地区において、除去土壌の再生に関する安全性や作物の育成の確認を通して、将来の農業の再生を図るための実証事業を行なっています。

「いたて便り」全4回を通して、環境再生に向けた進捗状況などについてご報告いたします。



環境省は飯舘村の長泥地区において、除去土壌の再生に関する安全性や作物の育成の確認を通して、将来の農業の再生を図るための実証事業を行なっています。

「いたて便り」全4回を通して、環境再生に向けた進捗状況などについてご報告いたします。



「までいの村」から。

「までいの村」から。



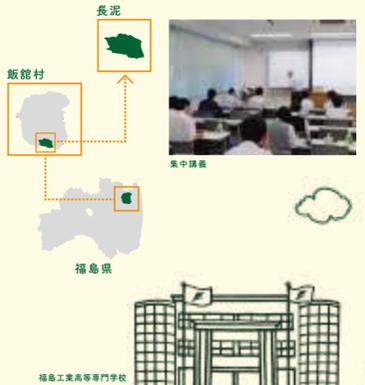
私たちは「知ること」から始めました。福島工業高等学校では、学生のみなさんが除去土壌の再生利用に関する研究に取り組んでいます。それに込めた思いを4名の方に伺いました。全員が福島県出身。根底には震災で傷ついた福島の復興に関わりたいという願いがありました。



専攻科 産業技術システム工学 専攻1年 柳井 正樹
専攻科 産業技術システム工学 専攻1年 小林 千莉
専攻科 システムデザイン学 専攻2年 嘉賀 洋
建設環境工学科 5年 佐藤 彩花

「までいの村」から。

「集中講義や長泥地区でのフィールドワーク、共同教育などを通して放射線のこと、除去土壌の現状などを学びました。そこで得たものはまず「知ること」の大切さです。さらに交流や議論を経験することで考えを深めることができました。また「知ってもらう」努力は自分たち若者の責務だと思っています」とも、これは自分たちの未来の問題でもあり」と語ってくれました。



福島工業高等学校



環境省は飯舘村の長泥地区において、除去土壌の再生に関する安全性や作物の育成の確認を通して、将来の農業の再生を図るための実証事業を行なっています。

「いたて便り」全4回を通して、環境再生に向けた進捗状況などについてご報告いたします。



「までいの村」から。

「までいの村」から。



飯舘から、地元の声が届ける。「ぜひこの事業が他の地域の模範となるように、全力で進めてほしい」「またここ長泥の気候に合う野菜作りを、早く再開したい」これからの願いを込めた言葉がありました。「これからの再生事業に必要な人をどうするのか」「地域やコミュニティを再生するための配慮もお願いしたい」地元だからこそ切実な発言もありました。



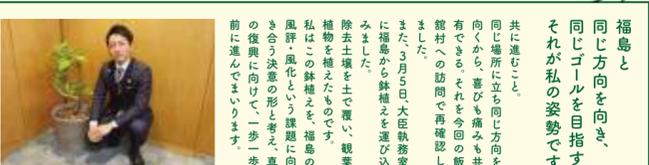
地元の声が込められた花と本を贈られました。

「までいの村」から。

去る2月9日、小泉進次郎環境大臣が飯舘村の再生利用実証事業の現地を視察。その折の、村長、区長をはじめとする長泥地区の住民の方々と意見交換会のことです。小泉環境大臣は、「一つひとつの意見・要望に耳を傾けながら、小さなことからでも、変化を目に見えるものにした。そして皆さまと大きな花を咲かせるよう再生事業にこれからも尽力してまいります」と語りました。



長泥は神の桜並木が有名です。



環境省は飯舘村の長泥地区において、除去土壌の再生に関する安全性や作物の育成の確認を通して、将来の農業の再生を図るための実証事業を行なっています。

「いたて便り」全4回を通して、環境再生に向けた進捗状況などについてご報告いたします。



「までい」は、「手間暇惜しまず」「丁寧に」「心を込めて」という飯舘の方です。